

【 画像情報システム 部門】

● 画像情報システムとは？

X線写真やCT・MRなど病気の診断や治療のために撮影された画像を、ネットワークを通じて受信・管理し、迅速かつ正確に読影/診察室へ画像配信するためのシステムのことです。

検査結果画像は画像サーバーへと蓄積され、検査終了後と同時に各科外来で閲覧することが可能です。また、蓄積された画像データは長期間保存されているため、前回の検査結果画像等と比較しながら診断することにより、診断・医療の質の向上を図っております。

病院システム全体もアナログからデジタルへ（紙カルテから電子カルテへ、フィルムから画像データへ）と変わりました。今や診療には絶対に欠かすことのできない画像データを迅速かつ正確に読影できる環境作りを第一に考え、医療サービスの向上に貢献しています。

また、線量記録と線量管理を一元的に管理できる最新の「被ばく線量管理システム」を2020年3月に導入しました。このシステムを利用して、「画像」だけ見ているのではなく、患者さんに対する放射線の安全利用を監視、過剰被ばくにつながらないように「安全」も見ています。

以上のように、患者さんには安心、安全な放射線検査を受けていただけるようにこれからも取り組んで参ります。

● 装置（使用機器）

RIS（Radiology Information System：放射線部門システム）

[富士通製 HOPE LifeMark-HX 生体検査ライブラリ]

PACS（Picture Archiving Communication System：医療情報管理システム）

[PSP製 EV Insite / EV Report]

検像端末

[PSP製 EV Confirm net], [FINDEX製 ProRadQA]

インポーター

[Array製 AOC/Preludio], [PSP製 EV Importer]

パブリッシャー

[CODONICS製 Virtua], [EPSON製 Disc Producer PP-100 II]

線量管理システム

[バイエル薬品製 Radimetrics]

